

言葉のイメージを感じよう
～ぐるぐるせんたく～

身に付けたい資質・能力

言葉を使って気持ちや思考を伝え合ったり、言葉で物事を知ったりする



構想、指導案検討で大事にしたこと



- ・生徒が言葉とイメージを結び付けやすい題材の選定
- ・水槽の中の水が「ぐるぐる」回る様子を五感で感じられるような工夫(手で水を触る、回る水にリボンを入れる)
- ・声の高さや速度、タイミング、役割分担等、声かけの吟味

ターニングポイント

重度重複障害のある生徒には、言葉と意味を結び付ける前に、その前段階の「身体感覚」と「音(言葉)」を結びつけることが大切

本時の授業

本時の探究課題

ぐるぐるって、どんなことかな？



- ・「ぐるぐる」という言葉を聴いて、視線を挙げて教師の方に向く…水槽の水を触ることを期待する表情
- ・触覚への働きかけに変化をつけ、身体感覚と音とのつながりを意識しやすいように、水流速度を変化させる…速度を落とした時に、手の力が入る

新井教授の助言



子どもたちが「ぐるぐる」をどう感じ、捉えたのか、その子なりの『言葉』とイメージのつながりを見取り、評価することが大切

音声言語を聞いて、なんとなく想起できる状態が、重度重複障害のある子どもの“深い学び”そこに至るまで1～2か月は繰り返しの活動が必要

この単元での深い学び

「ぐるぐる」の意味を知ることが大切ではなく、言葉が事物や状況、感覚を表していることに気付く

授業者の学びと授業改善のポイント

言葉のもつイメージを想起、活動の予測と期待へとつなげるために



授業の中で繰り返し感覚に働きかけ、言葉のイメージを想起できる授業展開をTT間で議論し具体化した。

言葉の深い理解に基づく指導の工夫

何かの合図、状況を区切る、リズムを作り出す等、言葉のもつ様々な働きを理解し、着目する側面に合わせた授業づくりをしていく。

特色ある地域と人々の暮らし
～未来へつなげる九谷焼づくり～

身に付けたい資質・能力

過去の経緯やこれらかの経験のために学び、自分の人生をよりよくする



構想、指導案検討で大事にしたこと



- ・生徒が九谷焼を「知って」「好き」になれるように、実際に触れたり、鑑賞したりできる学習環境の工夫
- ・九谷焼づくりの生産者たちの思いに迫ることができるような資料の活用…インタビュー記事や写真、九谷焼の生産額の推移グラフ等

ターニングポイント

中学部社会科「地域の産業」の学習目標は、地域における産業のために自分ができることを考えるというより、地域の人たちの努力や取り組みの目的が理解できるのがゴール

本時の授業

本時の探究課題

この九谷焼のイベントは、何のためにやるのかな？



- ・グラフから九谷焼の生産額が減少していることに気付く…九谷焼の危機！
- ・イベントの写真をじっくりと観察したり、主催者のインタビュー記事を深く読み込んだり…九谷焼づくりに関わる人たちの熱い思いに迫り、課題解決へ

新井教授の助言



子どもたちがじっくり調べる過程こそが、社会科の見方・考え方を深めるポイント

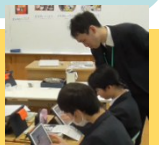
中学部2段階なので、基礎と発展の両方を埋め込むとおもしろい

この単元での深い学び

生徒自身が写真やグラフなどの資料から、九谷焼の生産者は「なぜ色々な取り組みをするのか？」を解明する

授業者の学びと授業改善のポイント

時間をかけてでも「自分」で調べる経験



社会科は自分で資料を調べ、考える教科。生徒が自分で調べることによって思考を働かせ社会的見方を伸ばしていく。

社会科は複数の分野が融合した教科

社会科という教科には「歴史・地理・公民の各分野を深く学ぶ」、「各分野の共通点を中核として学ぶ」という2つの側面があることに注意して授業の展開を考える。